

**平成24年度  
「児童生徒の問題行動等  
生徒指導上の諸問題に  
関する調査」結果の概要**

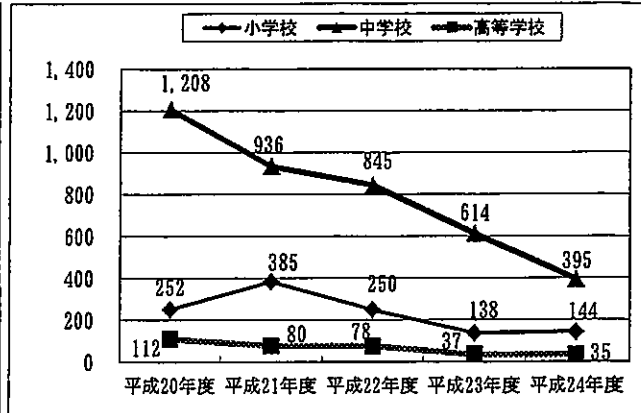
**奈良県教育委員会**

H25. 12. 9

# 平成24年度 暴力行為の状況

## 1 暴力行為の発生件数の推移（奈良県の公立学校）

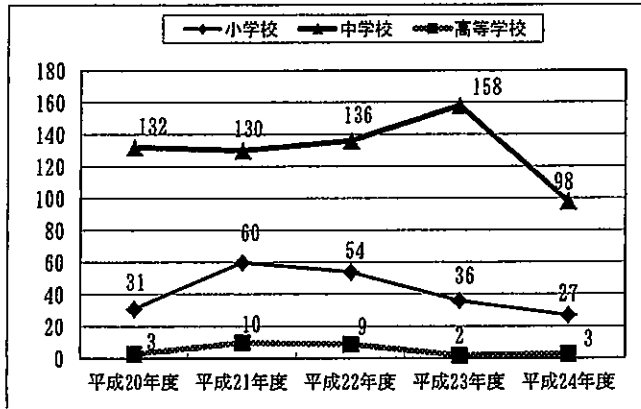
	小学校		中学校		高等学校		合計	
	内	外	内	外	内	外	内	外
平成20年度	136	8	342	53	22	13	500	74
平成21年度	252	385	936	80	112	80	1,572	1,401
平成22年度	250	845	78	37	112	80	1,173	789
平成23年度	138	614	37	144	35	574	789	574
平成24年度	144	395	35	574	35	574	574	574



## 2 暴力行為4形態の状況（奈良県の公立学校）

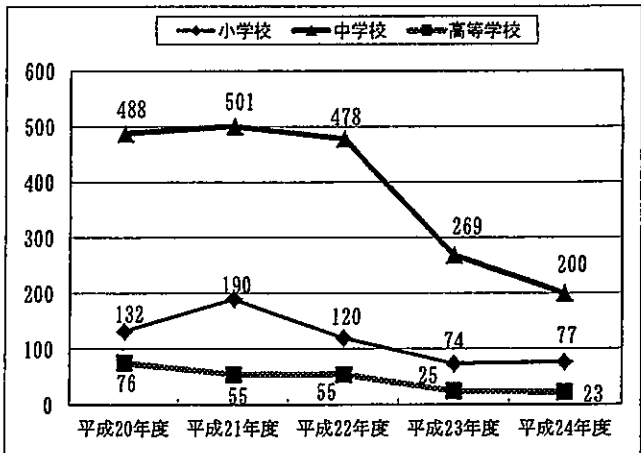
### (1) 対教師暴力の発生件数の推移

	小学校		中学校		高等学校		合計	
	内	外	内	外	内	外	内	外
平成20年度	27	0	93	5	3	0	123	5
平成21年度	31	60	132	10	3	10	166	200
平成22年度	54	136	9	9	136	9	199	199
平成23年度	36	158	2	2	158	2	196	196
平成24年度	27	98	3	3	98	3	128	128



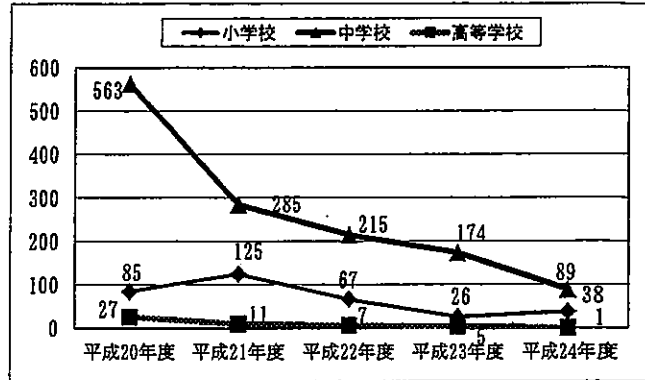
### (2) 生徒間暴力の発生件数の推移

	小学校		中学校		高等学校		合計	
	内	外	内	外	内	外	内	外
平成20年度	70	7	160	40	16	7	246	54
平成21年度	132	190	488	55	76	55	696	746
平成22年度	120	478	55	55	478	55	653	653
平成23年度	74	269	25	25	269	25	368	368
平成24年度	77	200	23	23	200	23	300	300



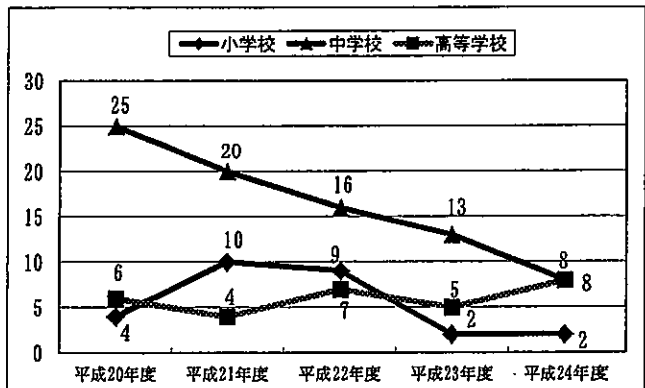
(3) 器物損壊の発生件数の推移

	小学校	中学校	高等学校	合計
平成20年度	85	563	27	675
平成21年度	125	285	11	421
平成22年度	67	215	7	289
平成23年度	26	174	5	205
平成24年度	38	89	1	128



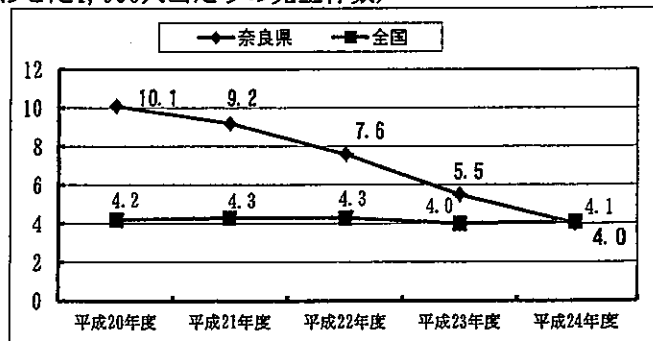
(4) 対人暴力の発生件数の推移

	小学校		中学校		高等学校		合計	
平成20年度	4		25		6		35	
平成21年度	10		20		4		34	
平成22年度	9		16		7		32	
平成23年度	2		13		5		20	
平成24年度	2		8		8		18	
校内外の別	内	外	内	外	内	外	内	外
	1	1	0	8	2	6	3	15



3 全国との比較 (国公立小・中・高等学校合わせた1,000人当たりの発生件数)

	奈良県	全国
平成20年度	10.1	4.2
平成21年度	9.2	4.3
平成22年度	7.6	4.3
平成23年度	5.5	4.0
平成24年度	4.0	4.1



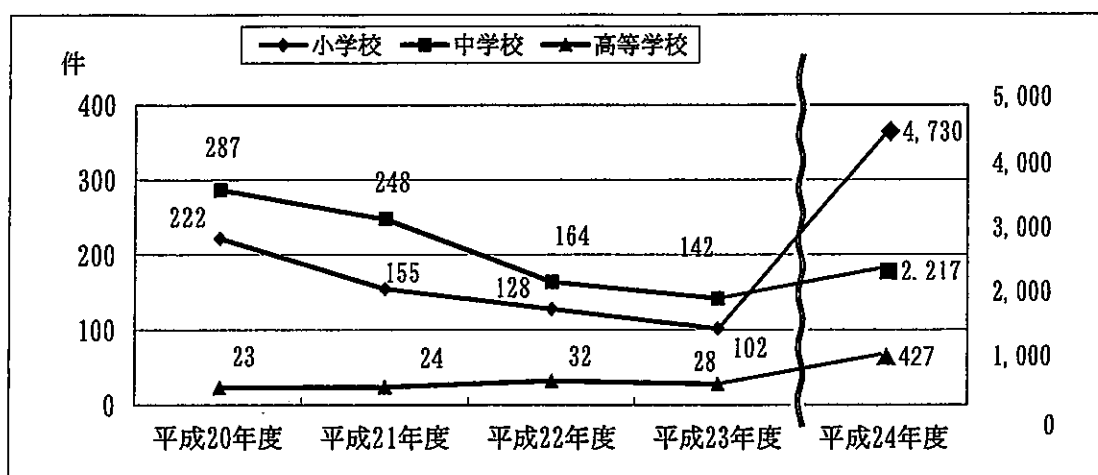
※ 平成24年度の公立小・中・高等学校合わせた1,000人あたりの発生件数は、全国が4.2件、奈良県が4.2件でした。

## 平成24年度 いじめの状況

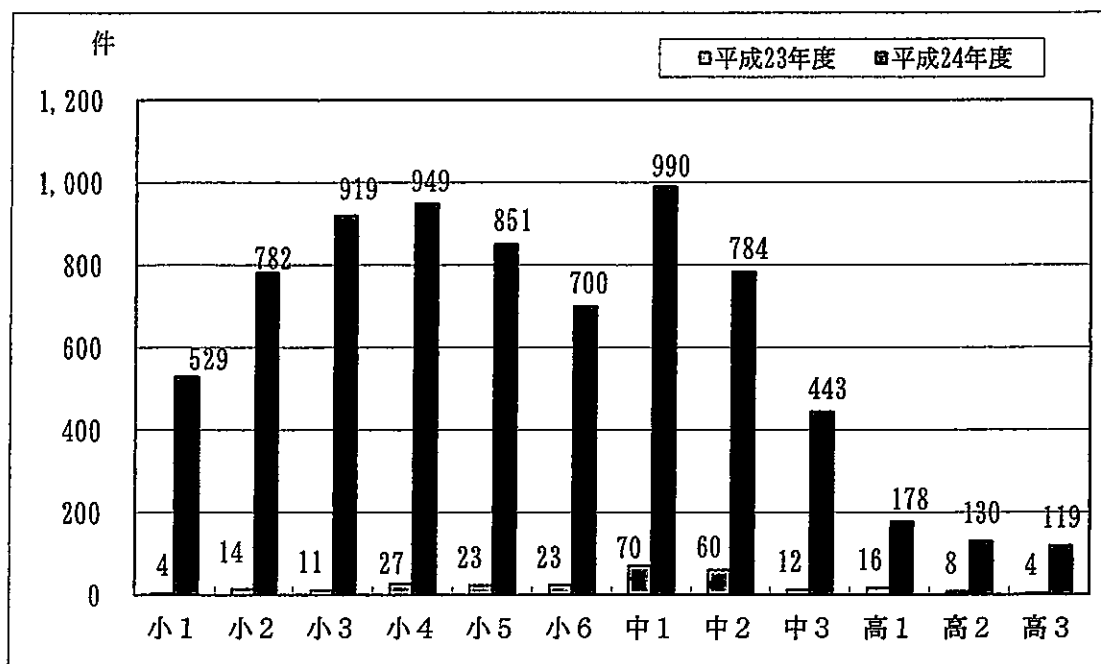
### 1 いじめの認知件数（奈良県の公立学校）（件）

	小学校	中学校	高等学校	合計
平成20年度	222	287	23	532
平成21年度	155	248	24	427
平成22年度	128	164	32	324
平成23年度	102	142	28	272
平成24年度	4,730	2,217	427	7,374

※ 国立・私立・特別支援学校は除く



### 2 学年別いじめの認知件数（奈良県の公立学校）



3 いじめ発見のきっかけ（公立学校）

(%)

区 分	年度	小学校		中学校		高等学校	
		奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
学校の教職員が発見	H24	86.8	74.1	77.1	60.8	79.2	74.7
	H23	26.5	54.9	24.6	48.5	17.9	52.7
内 学級担任が発見	H24	8.7	13.6	5.9	12.0	3.0	6.6
	H23	21.6	20.1	14.1	17.9	10.7	9.6
内 学級担任以外の教員が発見	H24	0.5	1.0	2.8	4.7	2.8	3.6
	H23	2.9	1.6	9.9	6.2	7.1	6.7
内 養護教諭が発見	H24	0.2	0.3	0.5	0.8	0.0	0.6
	H23	0.0	0.4	0.0	1.0	0.0	1.3
内 スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	H24	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0	0.2
	H23	0.0	0.2	0.0	0.4	0.0	0.4
内 アンケート調査などの学校の取組により発見	H24	77.6	59.0	68.0	43.1	73.3	63.6
	H23	2.0	32.6	0.7	23.0	0.0	34.7
学校の教職員以外の情報により発見	H24	13.2	25.9	22.9	39.2	20.8	25.3
	H23	73.5	45.1	75.4	51.5	82.1	47.3
内 本人からの訴え	H24	7.6	12.6	13.4	21.0	13.8	15.4
	H23	23.5	19.0	37.3	26.3	42.9	29.8
内 当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	H24	3.6	8.9	5.0	11.5	0.7	5.0
	H23	28.4	18.1	18.3	16.2	35.7	8.8
内 児童生徒（本人を除く）からの情報	H24	1.3	2.4	3.2	4.1	5.9	3.4
	H23	10.8	4.3	12.7	5.7	0.0	6.0
内 保護者（本人の保護者を除く）からの情報	H24	0.6	1.6	1.2	2.0	0.5	0.9
	H23	7.8	3.3	4.9	2.8	3.6	1.7
内 地域の住民からの情報	H24	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.1
	H23	1.0	0.2	1.4	0.2	0.0	0.1
内 学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	H24	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.3
	H23	2.0	0.2	0.7	0.2	0.0	0.3
内 その他（匿名による投書など）	H24	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2
	H23	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.6

※ 構成比は、各区分における認知件数に対する割合

※ 構成比は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までとした。そのため、構成比で、合計が100とまらない場合もある。

4 いじめの態様（公立学校）

(%)

区 分	年度	小学校		中学校		高等学校	
		奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる	H24	63.9	63.1	64.8	66.9	65.3	64.4
	H23	54.9	65.9	54.2	67.2	75.0	61.6
仲間はずれ、集団による無視をされる	H24	26.0	23.3	26.1	18.6	24.4	18.7
	H23	33.3	22.6	16.2	17.9	21.4	14.9
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	H24	20.4	23.1	19.7	18.8	17.8	18.1
	H23	19.6	24.1	19.7	19.7	46.4	21.7
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	H24	12.7	9.5	7.4	6.7	7.7	7.7
	H23	2.0	6.0	7.0	7.1	7.1	8.8
金品をたかられる	H24	5.4	3.3	3.4	2.4	3.3	4.3
	H23	4.9	1.7	2.1	2.3	0.0	5.4
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	H24	7.5	9.2	8.6	7.4	4.7	8.7
	H23	9.8	7.6	10.6	7.9	3.6	8.4
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	H24	8.4	9.4	6.1	7.3	5.6	9.5
	H23	9.8	6.4	12.7	6.9	14.3	10.3
パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	H24	1.1	1.4	7.0	5.6	13.6	14.7
	H23	0.0	1.1	0.7	5.3	28.6	14.8
その他	H24	3.8	4.3	5.7	3.1	6.3	4.8
	H23	3.9	3.9	4.2	2.6	3.6	4.6

※ 構成比は、各区分における認知件数に対する割合《複数選択可》

5 いじめの解消状況（公立学校）

(%)

区 分	年度	小学校		中学校		高等学校	
		奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
いじめが解消しているもの	H24	98.3	90.9	98.1	86.7	85.5	90.5
	H23	77.5	82.9	83.1	79.1	53.6	80.4
一定の解消が図られたが、継続支援中	H24	1.4	6.9	1.4	10.1	9.6	6.0
	H23	18.6	13.7	12.7	16.2	32.1	12.1
解消に向けて取組中	H24	0.1	2.0	0.5	2.8	2.8	2.1
	H23	1.0	2.9	4.2	3.9	3.6	4.5
その他 (H23は他校への転学、退学等)	H24	0.1	0.2	0.1	0.4	2.1	1.4
	H23	2.9	0.5	0.0	0.8	10.7	3.1

※ 構成比は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までとした。そのため、構成比で、合計が100とならない場合もある。

6 学校におけるいじめの問題に対する日常の取組（公立学校）(%)

区 分	小学校		中学校		高等学校	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
職員会議等を通じていじめ問題について教職員間で共通理解を図った	95.7	96.1	95.2	96.7	97.5	90.8
いじめの問題に関する校内研修を実施した	87.2	75.3	79.0	72.1	92.5	57.6
道徳や学級活動の時間にいじめにかかわる問題を取り上げ、指導を行った	95.3	91.8	91.4	91.8	90.0	59.4
児童・生徒会活動等を通じて、いじめ問題を考えさせたり、生徒同士の人間関係や仲間作りを促進した	60.2	62.1	68.6	69.7	40.0	36.4
スクールカウンセラー、相談員、養護教諭を積極的に活用して相談にあたった	59.7	55.9	71.4	74.5	57.5	58.7
いじめ問題に対応するため、校内組織の整備など教育相談体制の充実を図った	81.0	72.6	82.9	75.8	80.0	62.1
教育相談の実施について、必要に応じて教育センターなどの専門機関と連携を図るとともに、学校以外の相談窓口の周知や広報の徹底を図った	50.2	39.3	57.1	42.8	60.0	36.1
学校におけるいじめへの対応方針や指導計画等を公表し、保護者や地域住民の理解を得るよう努めた	35.5	34.5	33.3	33.5	22.5	25.5
P T Aや地域の関係団体とともに、いじめの問題について協議する機会を設けた	25.1	24.7	21.9	25.5	12.5	11.3
いじめの問題に対し、地域の関係機関と連携協力した対応を図った	25.1	16.2	32.4	19.6	10.0	9.3
その他	2.8	1.6	1.0	2.0	2.5	4.9

※ 構成比は、各校種の学校総数に対する割合《複数選択可》

7 いじめの日常的な把握のために、学校が直接児童生徒に行った具体的な方法（公立学校）

(%)

区 分	年度	小学校		中学校		高等学校	
		奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
アンケート調査の実施	H24	100.0	99.3	100.0	99.4	100.0	96.7
	年1回	52.9	11.5	34.3	6.7	55.0	35.3
	年2・3回	43.2	65.0	61.0	60.7	45.0	57.7
	4回～	3.9	24.0	4.8	32.7	0.0	7.0
	H23	100.0	96.5	100.0	97.6	100.0	87.5
個別面談の実施	H24	68.0	79.8	95.2	92.0	85.0	80.2
	H23	57.3	79.7	90.7	93.7	100.0	86.0
「個人ノート」や「生活ノート」といったような教職員と児童生徒との間で日常的に行われている日記等	H24	68.9	53.5	55.2	78.4	10.0	8.7
	H23	79.6	61.6	59.3	77.9	5.0	9.0
家庭訪問	H24	81.1	60.5	89.5	70.7	50.0	26.3
	H23	83.9	61.1	86.1	70.4	55.0	28.3
その他	H24	11.7	4.7	11.4	4.6	2.5	4.0
	H23	8.1	7.4	14.8	6.6	5.0	6.3

※ 構成比は、各校種の学校総数に対する割合《複数選択可》

## 8 全国との比較

1校あたりの認知件数（公立学校） (件)

区 分	小学校		中学校		高等学校	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
平成24年度	23.0	5.5	21.1	5.9	10.7	2.9
平成23年度	0.5	1.5	1.3	3.0	0.7	1.1

(全国、奈良県いずれの数値も公立学校の認知件数)

1,000人あたりの認知件数（全国の数値は国・公・私立学校、奈良県の数値は公立学校） (件)

区 分	小学校		中学校		高等学校	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
平成24年度	66.0	17.4	61.2	17.8	15.6	4.8
平成23年度	1.4	4.8	3.9	8.6	1.0	1.8

# 平成24年度 小学校・中学校における不登校児童生徒の状況(年間30日以上)

## 1 1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移 (国公立小・中学校)

	小学校		中学校		小・中学校	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
平成20年度	3.9	3.2	32.8	28.9	13.7	11.8
平成21年度	4.1	3.2	29.5	27.7	13.0	11.5
平成22年度	3.6	3.2	30.8	27.3	13.1	11.3
平成23年度	4.1	3.3	28.7	26.4	12.8	11.2
平成24年度	4.5	3.1	28.9	25.6	13.2	10.9

## 2 公立小学校・中学校における不登校児童生徒の状況等

### (1) 不登校児童生徒数の推移 (奈良県の公立小・中学校)

		小学校	中学校	人
		不登校児童生徒数	不登校児童生徒数	
平成20年度	不登校児童生徒数	309	1,301	1,400 1,200 1,000 800 600 400 200 0
	1,000人当たり	4.0	35.6	
平成21年度	不登校児童生徒数	322	1,184	1,400 1,200 1,000 800 600 400 200 0
	1,000人当たり	4.2	32.5	
平成22年度	不登校児童生徒数	280	1,226	1,400 1,200 1,000 800 600 400 200 0
	1,000人当たり	3.7	34.0	
平成23年度	不登校児童生徒数	309	1,146	1,400 1,200 1,000 800 600 400 200 0
	1,000人当たり	4.2	31.6	
平成24年度	不登校児童生徒数	331	1,137	1,400 1,200 1,000 800 600 400 200 0
	1,000人当たり	4.6	31.4	

### (2) 学年別不登校児童生徒数と前年度からの継続の状況 (公立小・中学校)

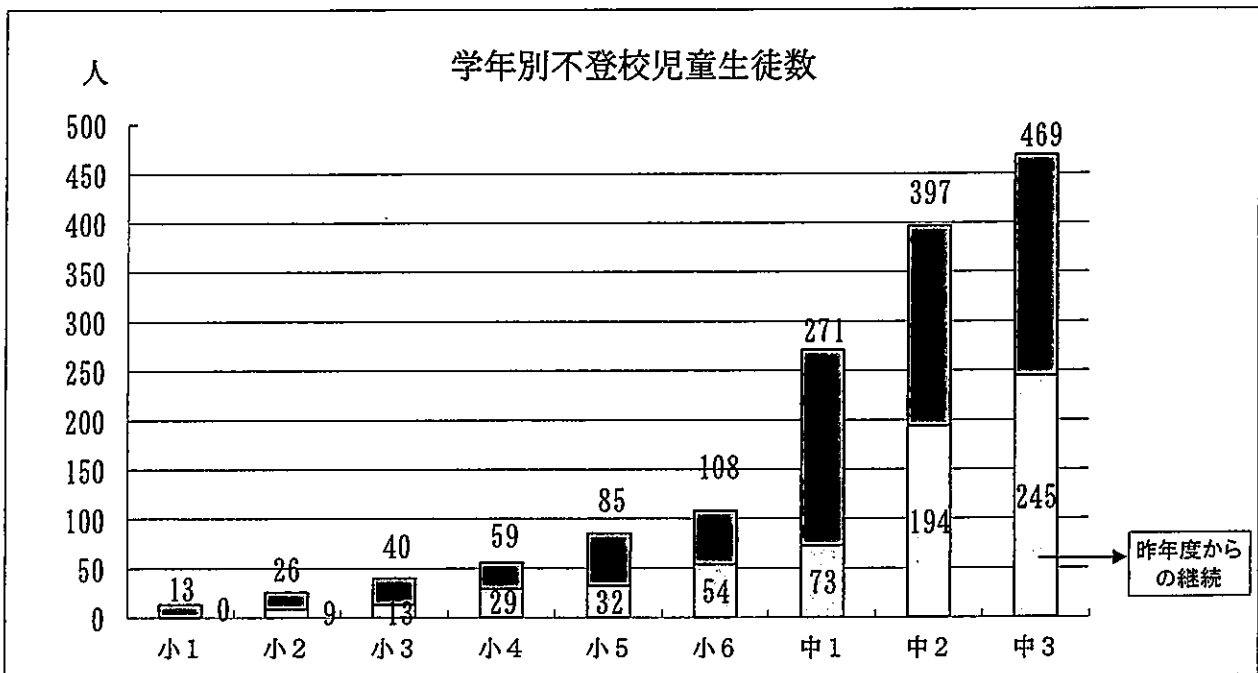
#### 小学校

区 分		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	
奈良県	不登校児童数 (人)	13	26	40	59	85	108	331	
	比率 (%)	3.9	7.9	12.1	17.8	25.7	32.6	100.0	
	在籍者数 71,672人	うち23年度から継続 (人)		9	13	29	32	54	137
		うち23年度から継続 (%)	0.0	34.6	32.5	49.2	37.6	50.0	43.1
全 国	不登校児童数 (人)	946	1,569	2,482	3,770	5,446	6,854	21,067	
	比率 (%)	4.5	7.4	11.8	17.9	25.9	32.5	100.0	
	在籍者数 6,764,619人	うち23年度から継続 (人)		521	825	1,422	2,065	2,928	7,761
		うち23年度から継続 (%)	0.0	33.2	33.2	37.7	37.9	42.7	38.6



中学校

区 分		1 年 生	2 年 生	3 年 生	計	
奈良県	平成24年度不登校生徒数 (人)	271	397	469	1,137	
	比率 (%)	23.8	34.9	41.2	100.0	
	在籍者数 36,255人	うち23年度から継続 (人)	73	194	245	512
		うち23年度から継続 (%)	26.9	48.9	52.2	45.0
全 国	平成24年度不登校生徒数 (人)	20,443	32,150	35,646	88,239	
	比率 (%)	23.2	36.4	40.4	100.0	
	在籍者数 3,569,010人	うち23年度から継続 (人)	6,288	16,390	22,540	45,218
		うち23年度から継続 (%)	30.8	51.0	63.2	51.2



(3) 不登校となった直接のきっかけと考えられる状況（奈良県の公立小・中学校）

		小学校(人)	比率(%)	中学校(人)	比率(%)	合計(人)	比率(%)
学校に係る状況	いじめ	8	2.4	22	1.9	30	2.0
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	35	10.6	152	13.4	187	12.7
	教職員との関係をめぐる問題	8	2.4	14	1.2	22	1.5
	学業の不振	22	6.6	70	6.2	92	6.3
	進路にかかる不安	0	0.0	18	1.6	18	1.2
	クラブ活動、部活動等への不適応	0	0.0	33	2.9	33	2.2
	学校のきまり等をめぐる問題	2	0.6	18	1.6	20	1.4
	入学、転編入学、進級時の不適応	6	1.8	26	2.3	32	2.2
家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	23	6.9	57	5.0	80	5.4
	親子関係をめぐる問題	83	25.1	109	9.6	192	13.1
	家庭内の不和	16	4.8	39	3.4	55	3.7
本人に係る状況	①病気による欠席	25	7.6	71	6.2	96	6.5
	②あそび・非行	4	1.2	136	12.0	140	9.5
	③無気力	56	16.9	256	22.5	312	21.3
	④不安など情緒的混乱	107	32.3	267	23.5	374	25.5
	⑤意図的な拒否	16	4.8	46	4.0	62	4.2
	上記①～⑤に該当しない本人に関わる問題	13	3.9	16	1.4	29	2.0
その他	14	4.2	17	1.5	31	2.1	
不明	5	1.5	41	3.6	46	3.1	
計		443		1,408		1,851	

※ 構成比は、各校種における不登校児童生徒数に対する割合《複数選択可》

(4) 不登校児童生徒への指導結果状況（奈良県の公立小・中学校）

区 分	小学校		中学校	
	人数	構成比	人数	構成比
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	113	34.1	320	28.1
指導中の児童生徒	218	65.9	817	71.9
うち登校には至らないものの好ましい変化がみられるようになった児童生徒	69	20.8	245	21.5
計	331		1,137	

※ 比率は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までとした。そのため、構成比で、合計が100とならない場合もある。

## (5) 相談・指導を受けた機関等及び指導要録上「出席扱い」した児童生徒数（奈良県の公立小・中学校）

(人)

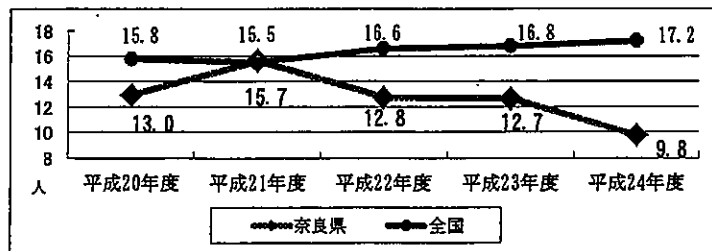
区 分	小学校		中学校		合 計	
	相談・指導を受けた人数	出席扱いした人数	相談・指導を受けた人数	出席扱いした人数	相談・指導を受けた人数	出席扱いした人数
① 適応指導教室	38	25	148	133	186	158
② 教育センター等教育委員会 所轄の機関	59	12	50	5	109	17
③ 児童相談所・福祉事務所	19	4	55	16	74	20
④ 保健所 精神福祉保健センター	3	0	1	0	4	0
⑤ 病院、診療所	29	5	59	6	88	11
⑥ 民間団体、民間施設	17	3	21	11	38	14
⑦ 上記以外の施設	4	1	9	3	13	4
⑧ ①～⑦の機関等での相 談・指導を受けた実人数	136	49	311	162	447	211
⑨ 養護教諭による専門的 な指導を受けた人数	73	/	146	/	219	/
⑩ スカ-カリテ-、心の教室 相談員等による専門的な相 談を受けた	107		253		360	
⑪ ⑨、⑩による相談・指 導を受けた実人数	150		377		527	
⑫ ①～⑦、⑨、⑩による 相談を受けた実人数	230		659		889	

(注) ①～⑦、⑨～⑩は複数回答であり、⑧、⑪、⑫は実数。

# 平成24年度 高等学校における不登校

## 1 1,000人当たりの不登校生徒数の推移 (国公立高等学校)

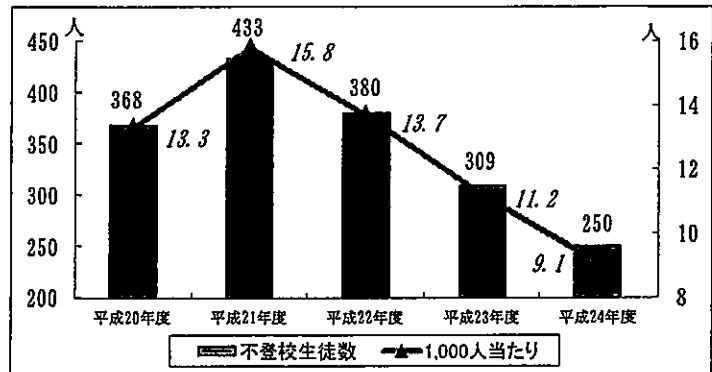
年度	奈良県	全国
平成20年度	13.0	15.8
平成21年度	15.7	15.5
平成22年度	12.8	16.6
平成23年度	12.7	16.8
平成24年度	9.8	17.2



## 2 公立高等学校における不登校生徒の状況等

### (1) 不登校生徒数の推移 (奈良県の公立高等学校)

年度	不登校生徒数等	高等学校
平成20年度	不登校生徒数	368
	1,000人当たり	13.3
平成21年度	不登校生徒数	433
	1,000人当たり	15.8
平成22年度	不登校生徒数	380
	1,000人当たり	13.7
平成23年度	不登校生徒数	309
	1,000人当たり	11.2
平成24年度	不登校生徒数	250
	1,000人当たり	9.1



### (2) 理由別長期欠席者数 (公立高等学校 全日制課程・定時制課程合計) (人)

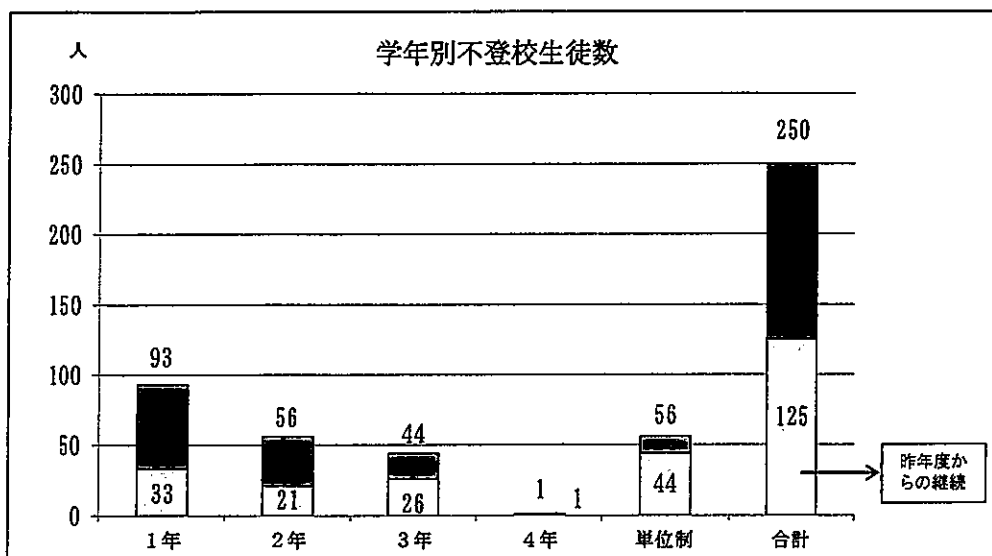
	在籍者数	理由別長期欠席者数				計
		不登校	経済的理由	病気	その他	
奈良県	27,395	250	13	95	330	688
	比率 (%)	36.3	1.9	13.8	48.0	100.0
全国	2,331,941	45,080	2,108	7,964	11,152	66,304
	比率 (%)	68.0	3.2	12.0	16.8	100.0

※ 「その他」の具体例

- ・ 保護者の教育に関する考え方、無理解・無関心から長期欠席している者
- ・ 家族の介護、家事手伝いなどの家庭の事情から長期欠席している者
- ・ 連絡先が不明なまま長期欠席している者
- ・ 欠席理由が2つ以上有り(例えば「病気」と不登校状態)、主たる理由が特定出来ない者

### (3) 学年別不登校生徒数と前年度からの継続の状況 (公立高等学校)

区分		1年生	2年生	3年生	4年生	単位制	計	
奈良県	平成24年度不登校生徒数 (人)	93	56	44	1	56	250	
	比率 (%)	37.2	22.4	17.6	0.4	22.4	100.0	
	在籍者数 27,395人	うち23年度から継続 (人)	33	21	26	1	44	125
		うち23年度から継続 (%)	35.5	37.5	59.1	100.0	78.6	50.0
全国	平成24年度不登校生徒数 (人)	10,620	8,646	6,248	635	18,931	45,080	
	比率 (%)	23.6	19.2	13.9	1.4	42.0	100.0	
	在籍者数 2,331,941人	うち23年度から継続 (人)	2,631	2,781	2,555	407	9,528	17,902
		うち23年度から継続 (%)	24.8	32.2	40.9	64.1	50.3	39.7



(4) 不登校となった直接のきっかけと考えられる状況（奈良県の公立高等学校）

(人)

(複数回答可)		生徒数(人)	比率(%)
学校に係る状況	いじめ	2	0.8
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	12	4.8
	教職員との関係をめぐる問題	1	0.4
	学業の不振	6	2.4
	進路にかかる不安	18	7.2
	クラブ活動、部活動等への不適応	7	2.8
	学校のきまり等をめぐる問題	2	0.8
	入学、転編入学、進級時の不適応	12	4.8
家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	14	5.6
	親子関係をめぐる問題	30	12.0
	家庭内の不和	7	2.8
本人に係る状況	①病気による欠席	19	7.6
	②あそび・非行	16	6.4
	③無気力	61	24.4
	④不安など情緒的混乱	69	27.6
	⑤意図的な拒否	5	2.0
	上記①～⑤までのいずれにも該当しない、本人に関わる問題	2	0.8
	その他	3	1.2
不明	9	3.6	
計	295		

※ 構成比は、不登校生徒数に対する割合《複数選択可》

(5) 不登校生徒のうち中途退学・原級留置になった生徒数（公立高等学校 全日制・定時制）

		奈良県	全国
中途退学	不登校生徒数 (A)	250	45,080
	不登校生徒のうち中途退学に至った者 (B)	78	14,363
	(B) / (A) (%)	31.2	31.9
原級留置	不登校生徒数 (A)	250	45,080
	不登校生徒のうち原級留置に至った者 (B)	35	3,983
	(B) / (A) (%)	14.0	8.8

平成24年度 県立高等学校中途退学者数集計表(全日制)

1 中途退学者数(学年別・事由別)

事由	学年	学業不振	学校生活・学業不適応				進路変更	問題行動	小計	病気が原因	経済的理由	家庭事情	その他	小計	合計	生徒総数
			もともと高校生活に熱意がない	授業に興味がわかない	人間関係がうまく保てない	学校の雰囲気が合わない										
事由別 中途者数	1年	6	27	12	2	13	22	100	5	8	1	3	1	13	200	
	2年	1	1	8	0	6	7	36	2	7	0	2	0	14	75	
	3年	0	0	2	1	1	5	18	0	3	1	1	0	5	32	
事由別 中途者数		7				107		154	7	18	7	6	1	32	307	
事由別率		2.3%				34.9%		50.2%	2.3%	5.9%	2.3%	2.0%	0.3%	10.4%	100.0%	

2 事由別中途退学者数推移表

事由 年度	学業不振	学校生活・学業不適応				進路変更	問題行動	小計	病気が原因	経済的理由	家庭事情	その他	小計	退学率(%)	学年別			生徒総数
		もともと高校生活に熱意がない	授業に興味がわかない	人間関係がうまく保てない	学校の雰囲気が合わない										その他	1年	2年	
平成20	20	22	39	11	44	30	2	401	10	4	17	0	31	1.72	271	129	32	25,130
					146										62.7%	29.9%	7.4%	
平成21	22	41	16	10	17	25	1	339	14	2	3	0	19	1.44	234	97	27	24,366
					109										65.4%	27.1%	7.5%	
平成22	18	44	29	9	22	26	6	332	17	7	12	0	36	1.47	242	106	20	25,078
					130										65.8%	28.8%	5.4%	
平成23	22	30	45	8	27	34	4	325	13	3	6	1	23	1.40	230	89	29	24,938
					144										66.1%	25.6%	8.3%	
平成24	7	28	22	3	20	34	7	275	18	7	6	1	32	1.24	200	75	32	24,320
					107										65.1%	24.4%	10.4%	

## 〔状況〕

### 1 暴力行為

暴力行為は、対教師暴力、生徒間暴力、器物損壊、対人暴力の4形態で調査している。

平成24年度の本県の公立小・中・高等学校合わせた暴力行為の発生件数は、574件（前年度比215件減）であった。また、本県の国公立小・中・高等学校合わせた児童生徒1,000人あたりの暴力行為の発生件数は、4.0件（前年度比1.5ポイント減）であった。

公立小学校では144件（前年度比6件増）で、児童1,000人あたりの暴力行為の発生件数は、2.0件（前年度比0.1ポイント増）であった。形態別に見ると、対教師暴力27件（前年度比9件減）、生徒間暴力77件（前年度比3件増）、器物損壊38件（前年度比12件増）対人暴力2件（前年度比±0件）であり、対教師暴力は減少したものの、生徒間暴力と器物損壊が増加している。

公立中学校では395件（前年度比219件減）で、生徒1,000人あたりの暴力行為の発生件数は、10.9件（前年度比6.1ポイント減）であった。形態別に見ると、対教師暴力は98件（前年度比60件減）、生徒間暴力200件（前年度比69件減）、器物損壊89件（前年度比85件減）、対人暴力8件（前年度比5件減）と、全ての項目において減少した。

公立高等学校においては35件（前年度比2件減）で、生徒1,000人あたりの暴力行為の発生件数は、1.3件（前年度比±0ポイント）であった。形態別に見ると、対教師暴力3件（前年度比1件増）、生徒間暴力23件（前年度比2件減）、器物損壊1件（前年度比4件減）、対人暴力8件（前年度比3件増）であった。

### 2 いじめ

本県の公立学校における平成24年度のいじめの認知件数は、小学校では4,730件（前年度比4,628件増）、中学校では2,217件（前年度比2,075件増）、高等学校では427件（前年度比399件増）となった。

また、本県の公立小・中・高等学校合わせた児童生徒1,000人あたりのいじめの認知件数は、54.5件（前年度比52.5ポイント増）であり昨年度より大幅に増加した。

いじめ発見のきっかけについては、小・中・高等学校とも、「アンケート調査など学校の取組により発見」が最も多く、小学校では次いで「学級担任が発見」、「本人からの訴え」の順となっている。中学校では2番目が「本人からの訴え」、3番目が「学級担任が発見」の順であり、高等学校では2番目が「本人からの訴え」、3番目には「児童生徒（本人を除く）からの情報」となっている。

いじめの態様は、小・中・高等学校ともに共通して、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く、次いで「仲間はずれ、集団により無視をされる」、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」の順となっている。

いじめが解消しているものは、小学校では98.3%、中学校では98.1%、高等学校では85.5%である。

いじめの日常的な把握のために、学校が直接児童生徒に行った具体的な方法の中で、「アンケート調査の実施」については、公立小学校、中学校、高等学校ともに、昨年に引き続き全校種で100.0%の実施率となった。

アンケートの実施頻度については

小学校	年1回：53%	年2～3回：43%	年4回以上：4%
中学校	年1回：34%	年2～3回：61%	年4回以上：5%
高等学校	年1回：55%	年2～3回：45%	年4回以上：0%



#### 参考 いじめの定義

本調査において、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。

「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」とする。

なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

「いじめ」の中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められるものや、児童生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。

これらについては早期に警察に相談・通報のうえ、警察と連携した対応を取ることが必要である。

### 3 小学校・中学校における不登校児童生徒の状況について

—30日以上欠席し、理由が経済的理由、病気等でないもの—

#### 〈国公立小学校・中学校における1,000人当たりの不登校児童生徒数〉

本県における、平成24年度の国公立小・中学校における1,000人当たりの不登校児童生徒数は、小学校が4.5人（前年度比0.4<sup>ポ</sup> ｲﾝﾄ増）、中学校が28.9人（前年度比0.2<sup>ポ</sup> ｲﾝﾄ増）、合わせて13.2人（前年度比0.4<sup>ポ</sup> ｲﾝﾄ増）であった。なお、全国の小・中学校では10.9人となっている。

#### 〈公立小学校・中学校における不登校児童生徒数〉

本県における、平成24年度の公立小・中学校における不登校児童生徒数は、小学校331人（前年度比22人増、7.1<sup>ポ</sup> ｲﾝﾄ増）、中学校が1,137人（前年度比9人減、0.8<sup>ポ</sup> ｲﾝﾄ減）であった。

#### 〈公立小学校・中学校における不登校児童生徒の前年度からの継続の状況〉

小学校においては、1年生を除く全ての学年で3割以上存在している。中でも、4年生と6年生は約半数が前年度からの継続である。

また、中学校においては、学年が進むに従って前年度から継続した不登校の生徒が増加する。3年生では5割以上が前年度からの継続である。

#### 〈公立小学校・中学校における不登校の直接のきっかけ〉

小学校では①「不安など情緒的混乱」（32.3％・前年度35.0％）

②「親子関係をめぐる問題」（25.1％・前年度20.7％）

③「無気力」（16.9％・前年度18.4％）の順である。

中学校では①「不安など情緒的混乱」（23.5％・前年度18.7％）

②「無気力」（22.5％・前年度23.6％）

③「いじめを除く友人関係をめぐる問題」（13.4％・前年度14.0％）

#### 〈公立小学校・中学校における不登校児童生徒への指導結果状況〉

「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」は、小学校においては113人（34.1％・前年度30.1％）、中学校においては320人（28.1％・前年度21.7％）となっている。

なお、「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」に特に効果があった

学校の措置については、小学校では

- ① 家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。
- ② 登校を促すため、電話をかけたたり迎えに行くなどした。
- ③ 不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。

中学校では

- ① 家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。
- ② スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあたった。
- ③ 登校を促すため、電話をかけたたり迎えに行くなどした。

の順となっている。

#### 〈相談・指導を受けた学校内外の機関等〉

- 不登校児童生徒のうち、学校外の適応指導教室や病院など専門家や機関等において相談・指導を受けた児童生徒は447人(30.4%・前年度29.8%)であった。  
これらの児童生徒のうち、指導要録上出席扱いとなった児童生徒は211人(47.2%・前年度42.0%)であった。
- 不登校児童生徒が相談・指導等を受けた学校内の専門家等については、養護教諭による専門的な指導を受けた児童生徒は219人、スクールカウンセラー、相談員等による専門的な相談を受けた児童生徒は360人であった。

## 4 高等学校における不登校

本県における、平成24年度の公立高等学校(全日制課程)における不登校の生徒数は189人で前年度より2人減少した。学年別では1年生が84人と最も多かった。さらに、不登校生徒の34.4%(前年度37.6%)、65人(前年度72人)が中途退学している。

公立高等学校(定時制課程)の不登校生徒数 61人で前年度より57人減少した。不登校生徒の21.3%(前年度31.4%)、13人(前年度37人)が中途退学している。

公立高等学校(全日制課程)における不登校の直接のきっかけについては、

- ①「不安など情緒的混乱」 (33.3%・前年度24.1%)
- ②「無気力」 (25.9%・前年度16.2%)
- ③「親子関係をめぐる問題」 (14.3%・前年度9.4%)

公立高等学校(定時制課程)における不登校の直接のきっかけについては、

- ①「無気力」 (19.7%・前年度0%)
- ②「あそび・非行」 (18.0%・前年度3.4%)
- ③「病気による欠席」 (14.8%・前年度1.7%)

## 5 高等学校における中途退学

平成24年度の県立高等学校(全日制課程)における中途退学者は、307人で、前年度に比べ41人減少し、中途退学率も0.16ポイント減少し1.24%であった。

中途退学者の学年別割合では、1年生が65.1%、2年生が24.4%、3年生が10.4%であり、1年生の割合が前年度比に比べ1.0ポイント、2年生が1.2ポイント減少した。

また、事由別では、①進路変更50.2%(前年度44.4%)

②学校生活・学業不適応34.9%(前年度41.3%)

③病気・けが5.9%(前年度3.7%)の順となっている。